

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立第一中学校

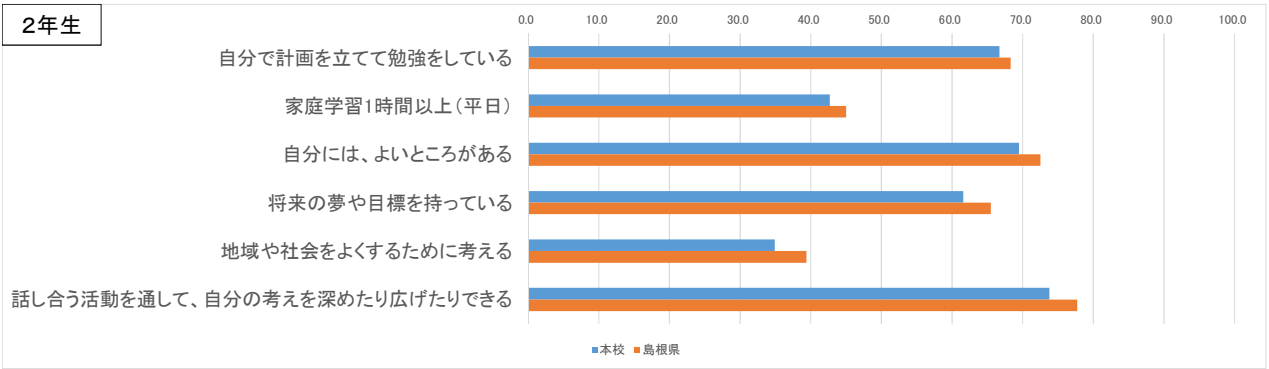
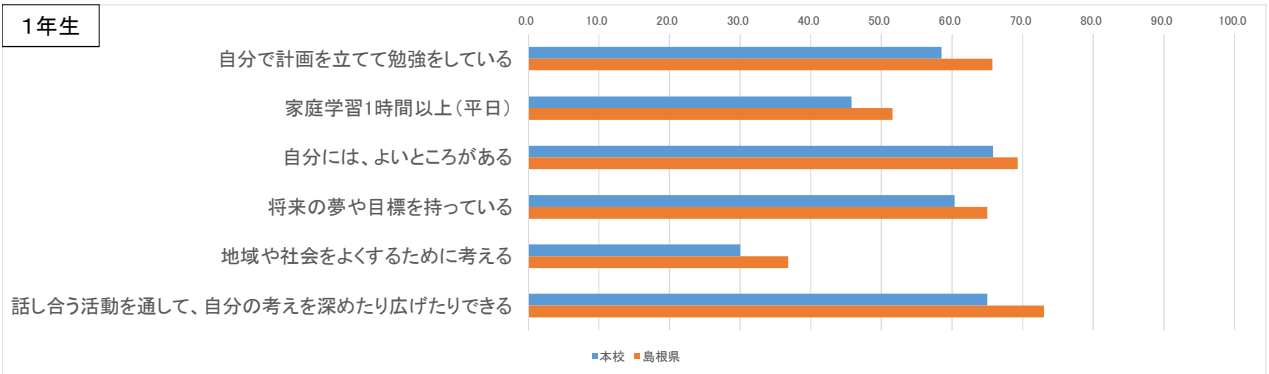
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○説明的・文学的文章を読み取る力があり、目標値や全国平均率を上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題の正答率が高く、「聞く」力があることがうかがえる。 ●漢字・文法・語句に関する問題の正答率が低い。相手や目的への意識をもって、正しく適切に漢字や語句を使い、丁寧に文章を書く意識を育てる必要がある。 ●授業には前向きに取り組んでいるが、知識の定着に至っていない。小テストを繰り返す、家庭学習で復習させる等の、意識的、継続的な取組が求められる。	○全体的に目標値を上回っており、特に「知識・技能」面の正答率が高い。漢字・文法・語句等の基礎的な力は定着している。 ○話し合いの内容を聞き取る問題の正答率も高い。「話す・聞く」力はある。 ●読解力がある一方で、「書く」問題だけ正答率が低い。日頃から、量的にはしっかり文章を書く生徒が多いが、構成を意識して書くことや、読み取ったことから自分で考え、わかりやすく表現することを苦手としている傾向が見られる。重点的に「書く」ことへの対策が必要である。
数学	○数学的な見方・考え方はできている。（活用はできている。） ●数の操作（文字式）ができていない。 ●パターンの決まっているものは解けるが、基本的なことが分かっていないので応用が利かないこともある。	○基礎的な内容の定着はおおむねできている。 ●自分で計画を立てて勉強できる生徒が7割弱いる半面、家庭学習の時間が1時間以上の割合が5割を切っている。 ●活用の問題の定着が図れていない。
英語	○基礎基本は目標値よりも高く、特に語彙の定着が図られ、並べ替えなど文法上のルールがきちんと定着している。 ○文の読み取りがよくできた。速読が求められる。 ●リスニングの力がやや弱い。ICTを活用したり、ネイティブの英語に触れる機会を増やしたりするなど対策が必要である。 ●英作文や自己表現が低い。場面や状況を与えてトレーニングすることが必要である。	○自己表現や英作文などの表現分野がよくできている。日ごろから書かせる活動をしていることで力がついた。英語で表現しようとする意欲が高い。 ○語形・語法の知識理解の正答率が高く、文法の基礎は定着しているものと思われる。 ●聞くこと・読むこと双方とも、まとまった英文、あるいは長文に苦戦している。3年生に向けて、少しずつ文の数を増やした練習をする必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○「自分には、よいところがある」と思っている生徒や、「将来の夢や目標を持っている」生徒が6割を超えている。 ○教科や学活、総合等の時間内での話し合い活動を通して、「自分の考えを深めたり広げたりできる」と感じている生徒も半数以上いる。 ●「自分で計画を立てて勉強をしている」生徒の割合に反して、継続的に一定時間以上の家庭学習をしている生徒の割合が低い。自主的に家庭学習をしようとする意識を高める手立てを講じる必要がある。	○「自分には、よいところがある」と思っている生徒や、「将来の夢や目標を持っている」生徒が6割を超えている。 ○話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる」と感じている生徒が7割以上いる。教科や様々な時間内での話し合い活動に積極的に取り組んでいる成果だと思われる。 ●「自分で計画を立てて勉強をしている」生徒の割合に反して、継続的に一定時間以上の家庭学習をしている生徒の割合が1年生よりも低い。進路意識を高めることで、家庭での学習時間の充実を図りたい。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 1年生 258 名 2年生 248 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)